

平成25年度5月定例記者会見 会見録

日時 平成25年5月27日（月）午後3時30分～3時55分

場所 市役所2階 第1特別会議室

（市長）

はじめに、第63回九都県市首脳会議についてでございます。

九都県市首脳会議につきましては15日に開催され、本市から「子どもの笑顔を守る共同宣言」について提案をさせていただきました。次世代を担う子ども一人ひとりが、笑顔で、安心して暮らすことのできる社会の実現に向けまして、「子どもの笑顔を守る」という強い決意を九都県市で共有するとともに、その姿勢を社会に発信していくために共同宣言をしたところでございます。今後につきましては、それぞれの都県市におきまして、子どもの笑顔を守っていくための事業を展開いたしたいと思っております。

次に、はやぶさウィークに開催いたしますイベントにつきまして、ご紹介いたします。お手元の資料をご覧くださいと思います。

すでにご案内しておりますが、6月13日は「はやぶさの日」でございます。この日ははさんだ6月9日から16日までの8日間を「はやぶさウィーク」としまして、様々なイベントを開催いたします。この「はやぶさウィーク」では、「はやぶさ」、「はやぶさ2」に関わっているJAXAの教授など総勢10人の方々によりますリレー講演会を行うほか、6月9日、宇宙好きを公言し、科学番組などにも多数出演しておりますマルチタレントの中川翔子さんを銀河連邦大統領補佐官に任命させていただきました、「はやぶさ2」の打ち上げを応援していただく予定でございます。また、銀河連邦の6共和国で制作しました新キャラクター「銀河連邦ヒーロー」の初お披露目を予定しております。

そのほか、6月13日の「はやぶさの日」には、「はやぶさ」のあきらめない心、努力する心を大切にしてほしいと、市内の小中学校全109校で、はやぶさにちなんだ「はやぶさ給食」を提供します。

また、人気テレビアニメ「宇宙兄弟」の作者である小山宙哉さんと「銀河鉄道999」などで有名な松本零士さん、お二人が描かれたイラストの大型パネルをJR淵野辺駅・南北通路に展示をしたいと思っております。ご都合がございましたら、ぜひ取材等をお願いいたします。

次に、小田急相模原駅北口B地区に整備しておりました再開発ビルの街区の名称及びグランドオープンの日程が決まりましたので発表させていただきます。お手元に資料をお配りしておりますので、ご参照いただきたいと思います。街区のネーミングにつきましては、「ペアナード・オダサガ」に決定されました。フランス語で「二つで一組」を表す「ペア」と、「歩く」を表します「プロムナード」を掛け合

わせた造語で「ペアナード・オダサガ」となりました。既に完成しておりますA地区と現在整備を進めておりますB地区の二つが一体となって、家族そろって楽しみながら回遊できる街をイメージして名づけられたものと伺っております。また、グランドオープンの日程につきましては、平成25年10月10日木曜日に決定いたしました。多くの方に愛される名前であるとともに、多くの方にお越しいただきたいと存じます。

最後になりますが、6月3日、緑区橋本のシティ・プラザはしもとに開設いたします二つの施設についてご紹介をさせていただきます。

まず、一つ目の施設でございますが、橋本パスポートセンターでございます。3月に開設しました相模大野パスポートセンターに続きまして、市内2カ所目のパスポートセンターとして、緑区に設置するものでございます。これによりまして、市内にお住まい方は、相模大野パスポートセンターか橋本パスポートセンターのいずれか最寄りのパスポートセンターでパスポート発給の申請、受け取りをしていただけるようになります。

二つ目でございますが、多様化する求職者の状況に合わせまして、きめ細かな就労支援を行うため「相模原市総合就職支援センター」を開設いたします。この施設につきましては、ハローワーク相模原と市内に点在をしております三つの就労支援機関を集約しておりまして、ワンストップ機能で就労支援を受けられるようになりまして、利便性が高まるものと考えております。今後も市民サービスの向上に努めてまいりたいと思っております。

私からは以上でございます。

(記者)

市長は、二期目の半分を迎えましたが、公約の中でできたこと、できていないことについてお話しください。

(市長)

私の選挙公約では、施策を13挙げさせていただきました。地域医療の充実、中学校の完全給食についてはすでに完了させていただきました。また、特別養護老人ホームの待機者の解消、保育所の開設や定員増については、重点的に取り組みをさせていただきました。暮らし満足都市を実現するための10の条例プランにつきましては、市民協働推進条例、路上喫煙防止条例など四つの条例が制定済みで、残る六つの条例について、検討を進めているところでございます。このほか、市民の安全安心の確保、より良好な行財政運営の実現のため、暴力団排除条例、債権管理条例などにも取り組ませていただきました。また、現在、空き家対策の条例の制定に向けた準備を進めております。

保育所の待機児童につきましては、平成25年4月1日現在の待機児童ゼロを目指しておりましたが、先日、132人の待機児童数を報告させていただきました。平成23、24年の2カ年で定員を830人増やすこととしたところ、それを超え

る1,050人の定員増、220人も多く増やしましたが、昨年に比べ入所申込者が約300人も増加し、待機児童が想定以上に増えてしまいました。入所申込者が前年度より増えた理由について、原因を調査しておりますが、保育所の入所需要に対して、待機児童対策を積極的に実施し、定員増を進めた結果、保育需要を喚起したのではないかなと考えています。横浜市が待機児童を解消いたしましたでしたが、横浜市は株式会社立の保育所設置や、様々な保育資源を活用した結果だと伺っております。本市も定員増の計画を含め、家庭的保育事業や認定保育室など様々なことを行ってきましたが、株式会社立保育所の参入なども考えていかなければならないと思います。平成25年度につきましては、さらに280人定員増を図り、早く待機児童を解消してまいりたいと思います。

(記者)

来年4月1日現在には、待機児童をゼロにできるということでしょうか。

(市長)

保育所への入所を希望されているご家庭が多くいらっしゃいますのでゼロを目指したいと思います。現在、調査をしておりますが、例えば、当初は入所条件を満たして保育所に入られて、その後何らかの事情で条件が満たされなくなったまま、在籍されている方もいると聞いておりますので、よく内容を精査し、適正な対応を図りながら、その結果、待機児童ゼロに繋がっていくということをやっていきたいと思います。

(記者)

教育長に質問があります。

先日、不祥事で、体罰に関する処分を発表されましたが、本来であれば、任命権者である教育委員会が記者会見をすべきだったと思います。委員長は非常勤なので、少なくとも委員の一人である教育長が会見に出てくるべきだったと思いますが、何か用があったのでしょうか。

(教育長)

詳細な説明、県、県教委との日程、経過、状況等、事務局の詳しい者が説明した方がよろしいと思い、事務局に説明するように申し伝えました。

(記者)

特に用事があったわけではないということでしょうか。

(教育長)

はい。

(記者)

記者会見では、事実を「隠していた」「隠していなかった」という部分に質問が

集まりました。実際のところ、校長は課長の先輩にあたる方だと思います。そのようなこともありますので、課長が踏み込んだ答えができないというのは、一般的なことだと思います。ですから、任命権者である教育委員会の一人である教育長が出席して、はっきり説明すれば、あのようにかかからなかったと思います。この前、消防職員の処分の発表をされた際も、任命権者である消防長が出席され発表されました。

文部科学省の一次調査で体罰がないと報告した後、二次調査でこのようなことがあったのですから、事務局のトップである教育長が最低限出席して、どうしてこのようなことになったかを説明すべきだったと思っています。

(教育長)

その方が早いということではなく、そのようにした方がよいということでしたら、これからはそのようにしたいと思います。

また、先輩、後輩という立場があるということで、学校の状況を把握しづらいということは決してございません。

(記者)

先日の九都県市首脳会議でもありましたが、さがみ縦貫道の通行料は安くならないのでしょうか。

(市長)

圏央道が開通しましたら、圏央道の寒川南インターチェンジから関越自動車道までの通行料が約3,000円になると聞いておりますので高いと思います。先日、黒岩知事が国土交通省に申し入れをされました。圏央道の目的は都内の通過交通を解消することです。通行料が高いと利用者が少なくなりますので、2,000円ぐらいにしていきたいと申し入れをされたと伺っております。

九都県市首脳会議では、圏央道だけではなく外環道やアクアラインも恒常的に安くしていただきたいと連携して強く申し入れをすることとしました。産業振興や利便性向上になるような利用体系、特に3環状の連携を図っていく旨確認されたところです。

(記者)

漁網について、受け入れを表明した自治体がありましたが、これにより神奈川県割り当てられた量はほぼ達したのでしょうか。

(市長)

災害がれきは被災地で処分できることになりましたが、漁網につきましては神奈川県として300トンの処分を引き受けてくれないかというお話がありました。

(記者)

表明した箱根町と南足柄市で300トンの漁網を受け入れてくれるということ

でしょうか。

(市長)

南足柄市では昨日も受け入れに向けた地元協議がされています。箱根町は受け入れを表明したということで、現時点では最終決定されておられません。

(記者)

受け入れが決定すると本市での受け入れはなくなるのでしょうか。

(市長)

被災地全体の災害がれきや漁網の処理の状況、神奈川県だけでなく他の都道府県の受け入れ状況も踏まえ、全て処理できるということであれば、これで終わると思います。今後、新たな要請があれば、神奈川県や本市といたしましても検討しなければならぬと思います。

(記者)

前記者会見でも伺いましたが、1ヶ月たって神奈川県と3政令市との調整はどのようになっていますか。

(市長)

事務レベルでも具体的な話しは進んでおりません。現在、県では箱根町と南足柄市が漁網の受け入れを表明したことから、その調整をされていると思います。具体的なことはわかりませんが、神奈川県として被災地の要望に対応できるのではないかと思います。

(記者)

他自治体で国の復興予算に関する報道がありました。ご存知ですか。

(財務部長)

被災地支援に係る計画を策定しただけで、国の復興予算からの補助金が交付されたという報道があったと承知しております。

(市長)

本市には、そのような事例はありません。

(記者)

横浜市の待機児童はゼロになりましたが、現場では保育士が足りない状況です。具体的にどのような影響があるか明確ではありませんが、横浜市の影響が周辺市に及んでいるという話もありますが、いかがでしょうか。

(こども育成部長)

現在、具体的な話しとして、保育士が直ちに不足しているという状況はありません。本市では現在、再任用の保育士やOBを活用しております。

(市長)

横浜市が積極的な待機児童対策を行ったことで、相模原市の人材が不足しているという話しは聞いておりませんが、現状として0歳児、1歳児の乳児を保育するには、保育士の数が必要です。これは、確保しなければなりません。待機児童の中で多いのは0歳児、1歳児ですので適正な人材確保を行っていきたいと思います。保育園の経営が厳しいという話しも聞いておりますので、平成25年度から保育園の保育士確保のための助成を実施します。

(副市長)

保育士等処遇改善臨時特例事業として、保育所の処遇改善に取り組んでおり、1人当たり月額にしますと保育士に約8,000円、主任保育士に約10,000円の改善が見込めるように、平成25年当初予算では1億2,500万円を計上しております。

以 上